

# 2020年度 体罰禁止の法改正後の罰によらない子育て 「ポジティブ・ディシプリン」普及強化事業 認定ファシリテーター養成へ向けた実地研修 実施報告書

文責：NPO 法人きづく ポジティブ・ディシプリン日本事務局

2020年度は初年度でありながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた一年だった。ポジティブ・ディシプリンは、養育者が罰によらない子育てへ行動変容を起こすために、子どもの権利の理念と科学的根拠に基づくプログラムであることから、養育者が全9回の対面セッションに通り、お互いからの学びを促進する力学も活用する構成となっている。したがって、世界各国の同プログラム普及活動と同様、オンラインによる実施への切り替えという判断は困難であった。感染症対策としては、定員数の削減、手指消毒の徹底、備品の共有使用の制限、換気の徹底などを施して実施する形態となった。

以下、プログラム・ファシリテーター養成を目的として実施した実地研修（事務局認証2時間版：2回、事務局認証2.5時間版：1回、標準プログラム：3回）について報告する。各実地研修へは、日本事務局に所属するカントリー・トレーナーが入り、研修生への資格取得のために必要な養成活動を行なった。その結果、2020年9月～2021年3月までに認定プログラム・ファシリテーター2人に加え、研修生3人が新たに誕生した。

## 1. 事務局認証2時間版

年	月日	場所	被養成者数	プログラム参加者数
2020	8月24日	宮城県A市	養成完了1	8
2020	9月2日	宮城県B市	養成完了1	10

事務局認証2時間版の実地研修は、標準プログラムの認定プログラム・ファシリテーターの有資格者を対象に実施した。2時間版は18時間を要する標準プログラムの要点を1/9の時間でまとめ伝える活動であり、標準プログラムへの誘導を目的にしている。よって、実地研修の対象者は、その時間感覚を体得しながら、時間的制約の大きい条件の中で確実に参加者を出口まで伴走する技術の獲得を目指す。今回の実地研修は、以下のように実施した。

### 【プログラムの様子】

〈A市〉参加者の中には、全く初めてPDに触れる方と、以前部分的にでも何らかの講座を受けたことのある方々が混在。テンポよく進んでいったが非常に理解力が高く、2時間版ながらも核心に触れる議論が膨らみ、参加者がそれぞれ子育てについて深く考える場となった。想定していたよりも議論の時間が長かったが、ファシリテーターが全体の時間配分を調整しながら進めたことで、時間通りに終わることができた。

〈B市〉施設スタッフのてきぱきとした仕切りもあり、時間通りに開始・終了。2時間という短い時間だったが、ファシリテーターが発言を促しながら、参加者同士が盛んに意見を交わし合う様子が見られた。プログラム終了後も質問にくる参加者も多数おり、18時間版への関心も高かった。

## 2. 事務局認証2.5時間版

年	月日	場所	被養成者数	プログラム参加者数
2020	10月14日	東京都A区	養成完了1	15

事務局認証 2.5 時間版の現地研修は、標準プログラムと 2 時間版の認定プログラム・ファシリテーターの有資格者を対象に実施した。2.5 時間版は 18 時間を要する標準プログラムの要点を 1/9 の時間でまとめ伝える活動であり、標準プログラムへの誘導を目的にしている。よって、現地研修の対象者は、その時間感覚を体得しながら、時間的制約の大きい条件の中で確実に参加者を出口まで伴走する技術の獲得を目指す。また、2.5 時間版は支援者を対象としていることから、プログラムの背景について概要説明を行う現地研修は、今回、以下のように実施した。

#### 【プログラムの様子】

・主催団体のスタッフを対象として実施。団体職員からボランティアの方まで立場や経験の異なる参加者を対象に PD を紹介する機会となった。新型コロナウイルス感染症対策のため、グループワークに制限のかかる実施形態となり、島を作らない形での実施となった。質疑応答ではプログラムに関する質問が出ており、関心の高さを窺い知ることができた。

### 3. 標準プログラム

年	月日	場所	被養成者数	プログラム参加者数
2020	9-12 月	東京都 B 区	養成継続 2	6
2020	9-12 月	宮城県 A 市	養成完了 1 養成継続 1	10
2021	1-3 月	宮城県 A 市	養成完了 1 養成継続 1	10

標準プログラムの現地研修は、標準プログラムの養成研修を修了した研修生を対象に実施した。本現地研修の対象者は、標準プログラム(18 時間)をトレーナーの伴走のもと実施し、養育者の行動変容を促すことのできるファシリテーターとしてのスキルを得ることを目指す。各プログラムの様子は以下の通りである。

#### 【プログラムの様子】

〈A 市〉秋期・冬期ともに普段から主催団体のひろばを利用している人とそうでない人が半々。和室だったこともありリラックスした雰囲気の中、参加者が自主的に連絡先を交換し始めるほど両期ともにグループとして打ち解けた。プログラム中は、アイスブレイク等を利用し、参加者が全体でも発言しやすい雰囲気をつくることにファシリテーターの工夫が見られた。

〈B 区〉標準プログラムとして最少人数でのプログラム実施となった。2 時間版に参加して標準プログラムへの参加を決めた方や当初からプログラムに関心のある参加者が中心となったこともあり、全般的に積極的な参加に助けられた。一方、6 名だったことで各参加者の発言量が必然と増えることやノーマライゼーションの深度はいつもと異なる側面があった。16 名定員で行う際と比較しタイムマネジメントや参加者との関係構築という観点では現地研修もいつもと異なる影響に考慮して行うように心がけた。Session8 ではプログラムに参加した意義を参加者が話す機会があり、それぞれの行動変容・意識変容があったことを確認することができた。

サイト名・動画名：体罰によらない子育てプログラム「ポジティブディシプリン」の実施

URL：[http://nippon.zaidan.info/jigyo/2020/0000094960/jigyo\\_info.html](http://nippon.zaidan.info/jigyo/2020/0000094960/jigyo_info.html)